

みなみはちろうじゅんなん の ち  
115. 南八郎殉難之地

■ 指定日

平成1年12月12日

■ 種別

史跡

■ 年代

江戸時代

■ 所在地

朝来市山口

■ 所有者

岩州神社(護国神社)



■ 内容

生野義挙に破れた南八郎以下の志士が自刃した場所が、この山伏岩である。この岩に血染めで「今月今日討死」と書き、8人の志士が切腹し、付近で討死した者も加えて13人が葬られている。後に京都より送られた4首を加えて17人の碑も建てられた。

併設されている「殉節忠士の墓」の文字は、慶応4年(1868)の春、西園寺公望が山陰道鎮撫総督として但馬入りした時に揮毫されたものである。附近には義士が生野代官所よりひきあげて甲冑姿のまま休んだという西念寺や、たてこもったという妙見堂、当時の状況を代官所に報告した始末書・目録等が残されている。また、戸原卯橘の辞世の句「思いたつことはならねどますらおの心ただしき末の道かな」も残っている。